

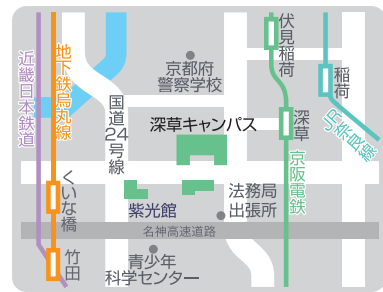
# 人間・科学・宗教シンポジウム(第二回)

# 「共生と持続可能性のある世界をめざして」

第1部	<b>13:00~15:15</b>
	<b>開会式</b> 13:00~13:15 開会挨拶: 龍谷大学長 若原 道昭(わかはら どうしょう)
	<b>研究発表</b> 13:15~15:15 「地球と人間の持続可能性の探究」 各センターからの研究成果報告 ○人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター ○里山学研究センター ○革新的材料・プロセス研究センター ○地域人材・公共政策開発システム オープン・リサーチ・センター レスポンス 河口 真理子(かわぐち まりこ)氏 株式会社大和総研経営戦略研究部部長、経営戦略研究所主任研究員、 社団法人日本証券アナリスト協会検定委員、青山学院大学講師 【専門領域】CSR: 企業の社会的責任、SRI: 社会的責任投資
<b>休憩</b> 15:15~15:30	

第2部	<b>15:30~17:40</b>
	<b>特別講演</b> 15:40~17:30 「Creative Sustainability Beyond COP15: Cities Change Politics」 地域から切りひらく持続可能な未来~COP15で何が話し合われたのか」 Gino Van Begin (Regional Director, ICLEI Europe) ジノ・ヴァン・ベギン氏(「イクレイ-持続可能性をめざす自治体協議会」世界事務局次長・ヨーロッパ事務局長) イクレイは、1990年に発足した持続可能な発展をめざす地方政府の連合体で、現在では1000を超える地方政府がメンバーとして参加しています。地域レベルでの持続可能な発展を推進するにあたり、各種情報や研修・トレーニングの提供、国際会議の開催、国際的ネットワークの構築と知識の共有、研究・パイロット事業の遂行、技術的サポートやコンサルティングなどの業務を行っています。 Gino Van Begin氏は、過去30年にわたりEU関連の国際機関などにおいて、持続可能な発展のフィールドで活躍。イクレイには2000年からローカル・アジェンダ21プログラムのディレクターとして参加し、2002年からヨーロッパ事務局長、2007年から世界事務局次長を兼務しています。2000年からは、「ヨーロッパ持続可能な都市キャンペーン」にも理事として参加し、ヨーロッパの500を超える都市が署名した、持続可能な都市のための「オルボ-憲章」を共同起草しました。また、昨年12月にコペンハーゲンで開催された国連気候変動枠組み条約第15回締約国会議(COP15)においても、イクレイ代表の公式オブザーバーとして様々な委員会に参加したほか、本大会と並行して設置された「地方政府気候ラウンジ」においても、世界の地方政府の声をとりまとめる上で、重要な役割を担いました。 レスポンス 高村 ゆかり(たかむら ゆかり) 龍谷大学法学部教授 白石 克孝(しらいし かつたか) 龍谷大学法学部教授、 地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター・センター長 牛尾 洋也(うしお ひろや) 龍谷大学法学部教授、里山学研究センター・副センター長
<b>閉会の辞</b>	

〈会期〉2010年2月13日(土)  
13時00分~17時40分  
〈会場〉龍谷大学 深草キャンパス 顕真館  
入場無料(定員400名)  
※申し込み方法は裏面  
要事前申し込み



**会場**  
龍谷大学 深草キャンパス 顕真館  
〒612-8577  
京都市伏見区深草塚本町67  
▶アクセス  
京阪「深草」駅下車、西へ徒歩約3分  
京都市営地下鉄「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分  
JR奈良線「稻荷」駅下車、南西へ徒歩約8分

※駐車場はございません。  
来場には公共交通機関をご利用ください。

# 「共生と持続可能性のある世界をめざして」

## 【開催趣旨】

サステナビリティ(持続可能性)は、1987年にまとめられた国連「環境と開発に関する世界委員会」(委員長:ブルントラント・ノルウェー首相)の報告書『私たち共通の未来(Our Common Future)』の「持続可能な発展・開発(sustainable development)」というコンセプトに起因している。「持続可能な発展」とは、「将来世代のニーズを損なうことなく、現在の世代の現存する人々のニーズも満たすような発展」を意味する。持続可能性とは、世代間平等性(intergenerational equality)を保つ発展概念といえる。

ふりかえてみると、近代の資本主義の波が世界に広がり、グローバルな世界観になるに伴い、人類は地球の資源を活用し、機械化産業によって大量生産を行い、市場を拡大して、経済成長することをめざしてきた。しかしその反面、1972年に出されたローマクラブの報告『成長の限界(Limits to Growth)』が示したように、地球資源は有限であり、「市場・産業・貯蓄」による成長には限界があることにも人類は気づきはじめた。また、IPCC(気候変動に関する政府間パネル: Intergovernmental Panel on Climate Change)は2007年に、21世紀末の地球の平均気温が20世紀末と比較して4℃上昇、最大6.4℃上がると予測した。

その一方で、人類の現実を目を向けると、国連開発計画(UNDP: United Nations Development Programme)によれば、2007年において12億人(18%)が一日1ドル未満で、20億以上の人々(30%)が2ドル未満で生活している。いまだに10億人以上が安全な水を、8億5千万人以上が十分な食料を得ることができない。適切な医薬品がなく治療が受けられないために、5歳までに死亡してしまう子どもたちが毎年1千万人もいるなど、依然多くの人々が豊かさから取り残されている。

したがってサステナビリティとは、人類が他の生命をも含めた多様性と地球資源の有限性を考慮し、生きとし生けるもののいのちと自然を守るとともに、発展途上国を含めたすべての人々の暮らしや多様な文化を守り育てていくことであり、地域や世代を超えて、地球環境と人類が共生していく道を探求していくことであろう。

このシンポジウム「共生と持続可能性のある世界をめざして」では、「自然と人間との共生」に焦点をしぼり、これらの成果と活動を尊重して、少しでも身近なところから、私たち自身が、持続可能性を考慮して、地球環境の保護に取り組み、人類社会の貧困や飢餓を減少させるように願っている。

釈尊は、「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穩であれ、安樂であれ」(スッタニパータ146偈)と説き、親鸞も「慈眼をもって衆生を視そなわすこと平等にして一子の如し」(『教行証文類』行巻)と示している。めざすべきは、人類は生き物の頂点に立っているという優越感を捨て、命を奪ってしか生きられないからこそ、他の命に対して感謝し、謙虚な姿勢を保つ必要がある。「少欲知足」「お蔭さま」「もったいない」「いただきます」「ごちそうさま」の伝統を受け継いでいくことも、地球を救う重要な鍵になるだろう。

龍谷大学の学術研究高度化推進事業では、未来への持続可能性を見据え、地域社会システムの再生と効果的な公共政策の実現(地域人材・公共政策開発システムオープンリサーチ・センター)、生態系保全と環境教育のために里山保全を通じて人間と自然の共生の道を探る総合的研究(里山学術研究センター)、省資源・エネルギー変換・貯蔵に関する研究開発(革新的材料・プロセス研究センター)、仏教生命観に基づき、かけがえのない生命を守る共生教育の拡充と砂漠緑化の植林を進める「アミダの森—いのちを大地に返す運動」の支援や自然と人間のつながりの回復(人間・科学・宗教オープンリサーチ・センター)、に取り組んでいる。それらの智慧と実践を組み合わせ、地球環境と人類社会の持続可能性の道を切り開いていきたい。

(人間・科学・宗教シンポジウム実行委員代表 鍋島直樹 白石克孝)

## 【受講申し込み方法】

事前にFAX、Eメールにてお申し込みください。①参加希望人数、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤氏名(フリガナ)を明記の上、下記宛先までお送りください。

### 人間・科学・宗教シンポジウム担当宛

■FAX : 075-593-5556 ■E-mail : jimukyoku.s@gmail.com 【応募締切 : 2010年2月2日(火) 必着】

※申込み多数の場合は抽選となります。当選発表は、聴講券の発送をもってかえさせていただきます。(聴講券発送予定日:2月4日[木]頃)抽選に関するお問い合わせはご連絡ください。

※お申込み時にご記入いただいた情報は、個人情報保護法により厳正に管理し、本事業の目的以外には利用しません。

※プログラムの内容は予告なしに変更する場合がございます。予めご了承ください。

このまま切り取らずに送信してください

# ■FAX送信先 075-593-5556■

## 人間・科学・宗教シンポジウム(第二回)参加申込書

ご住所	〒		
フリガナ	電話番号		参加希望人数
氏名	( ) -		人

お問い合わせ

人間・科学・宗教シンポジウム担当宛 TEL:090-1158-1504

【お問い合わせ受付期間】1/23(土)~2/2(火) 10:00~18:00(土日も受付)

※2/3(水)以降は下記番号までお問い合わせください

龍谷大学研究部(人間・科学・宗教総合研究センター)

TEL:075-645-2154・2184(土日祝を除く)